

令和5年7月2日

レフェリーレポート ～B級審査を終えて～

福岡県ハンドボール協会
谷本 拓矢

1、参加大会

第43回全国クラブ選手権大会・西地区大会

日時:令和5年7月1日(土)～7月2日(日)

場所:麒麟ビバレッジ周南総合スポーツセンター 他

2、実技試験での確認事項 中国ブロック審判長:大熨 嘉彦氏(岡山県)より

実技試験を行うにあたり、ターンオーバー等が起きた場合の順番について話があり、笛→方向指示→正しいジェスチャーの順で行うことなど、また指先までしっかり伸びているかなど細かな指摘があった。またB級に合格することで全国大会等で笛を吹く機会があるのでしっかりと判断ができるようにすることが大事だと言われた為、今回の試験でもしっかりと判断ができるように気を引き締めて臨んだ。

3、担当試合における気づきと反省(他社からのアドバイス)

○男子2回戦 熊本県教員クラブ(熊本県)24-23 HC40S'

前半は12対12の同点で折り返し、後半ラスト30秒までもつれる展開であった。前半の展開は両チームともに警告などのプレーはなく、前半を終えたが、後半に入り、サイドシュートに対し、DFが止まることができずに接触をしたため、2分間退場の判定をした際には、ベンチ、プレーヤーからアクションが起きたが上手く対応することができた。試合終了ラスト15秒、同点の場面で熊本教員クラブが速攻に転じ、中盤で横からプッシングされたが、アドバンテージを見てしまい、ラスト2秒でシュートを打ち、そのままゴールインの判定を行った為、HC40s'のベンチ、選手からはノーゴールではないかというアクションが起きたがそのまま、試合終了となった。終了後に横からのプッシングを30秒ルールでレッドカードの判断をしておけば、最後のシュートはなかったのではないかという話を頂き、試合終了まで、何が起きるかを想定してゲームに望まなければならないことを痛感した。

また、最後のゴールインの判定についてもTD、ペアと協議をしてからの判定でもよかったのではないのかという話も頂けたことを今後の糧にしていきたいと思えた。

4、他のレフェリーを観察して

多くのレフェリーを観察して、感じたことは選手とのコミュニケーションの取り方、正しい位置取り、速攻時における走るコース等が上手く、起きた現象に対してしっかりとした基準で裁いていた。またペア同士のバランスも良く、笛が被ることもなく、領域についてもしっかりとしていたことを県内大会等でも活用していきたいと感じた。

5、今後の課題

今大会で初めて、高校生以外のカテゴリーを吹かせて頂き、改めてレフェリーとしての基準を持って望まない早いゲーム展開では笛が遅れてしまい、試合がコントロールができないことを痛感した為、今後の県内大会等では、まずは基準を示していける努力をしていかなければならない痛感した。

6、終わりに

B級審査を受けるにあたり、多くの人のおかげがあつてこそだと改めて感じた大会であった。大慰中国審判長、鶴田九州審判長をはじめとした山口県ハンドボール協会の方々の今大会に向けての準備をしてこられたご労苦に感謝して結びとしたい。